

## 〔Ⅱ〕 「特別モニターへのアンケート調査」について

### (1) 特別モニターの委嘱について

(ア) まず、2つの番組の受講生200名ずつの中から、次の別表(1)と別表(2)にあるように、それぞれ、70名の方々に対し、特別モニターになっていただけるかどうかを問い合わせることとし、次のような依頼状(別紙1)と回答用ハガキ(別紙2)を郵送した。

なお、特別モニターの候補者を選ぶに際しては、次の点を考慮した。

(イ) 郵便事情を考慮して、次の4都県に住む受講生の中から選ぶこととした。

東京都

千葉県

埼玉県

神奈川県

(ii) 現在、短大・大学に通っている学生は除くこととした。

(イ) その結果、特別モニターの承諾者は、別表(3)・別表(4)のようになった。

### 別表(1)

『特別モニターの候補者』 (59. 7. 20)

「青少年文化」

東京都(100) ..... 35名

主婦	.....	12名
公務員	.....	12名
会社員	.....	8名
自由業	.....	3名

千 葉 (200) ..... 17名

主 婦	.....	8名
公務員	.....	1名
会社員	.....	5名
自由業	.....	3名

埼 玉 (300) ..... 11名

主 婦	.....	5名
公務員	.....	4名
会社員	.....	2名

神奈川 (400) ..... 7名

主 婦	.....	2名
公務員	.....	2名
会社員	.....	3名

計 ..... 70名

## 別表(2)

『特別モニターの候補者』 (59. 7. 20)

「人間の生物学」

東 京 (100) ..... 35名

主 婦	.....	12名
公務員	.....	9名
会社員	.....	10名
自由業	.....	4名

千 葉 (200) ..... 20名

主 婦	.....	8名
公務員	.....	5名
会社員	.....	4名
自由業	.....	3名

埼 玉 (300) ..... 8名

主 婦	.....	3名
公務員	.....	3名
会社員	.....	2名

神奈川 (400) ..... 7名

主 婦	.....	3名
公務員	.....	2名
会社員	.....	2名

計 ..... 70名

# (別紙 1)

昭和59年 7 月23日

受講生各位 殿

今般、放送教育開発センターでは、来たる 8 月20日 (月) から始まる大学放送教育実験番組のうち、『人間の生物学』と『青少年文化』という 2 番組について、受講生の方々に、番組内容が毎回どの程度理解されたかを調査することになっています。

つきましては、この15回にわたる放送期間中、毎週、センターからお送りする簡単な質問に答えていただける『特別モニター』を、既に受講生に内定している方々の中から再募集しています。毎回、質問の数は 1 問ずつの予定で、「番組のねらい」に関係した質問です。

このアンケート調査は、決して個人個人の成績を調べることが目的ではなく、あくまでも、番組改善のための資料とする目的で行なうものであって、従って、個人名などを出すことは、一切いたしません。ですから、安心してご協力をお願いしたいのです。

なお、毎回ご返事をいただいた方々には、このアンケートの結果を、毎回再び、できるだけ速くお知らせして、特別モニターの方々の学習の向上に役立つようにしたいと考えています。


来たる8月3日（金）までに、ご協力いただけるかどうかの御返事を、同封のハガキにてお知らせいただければ幸いです。

放送教育開発センター 研究開発部

『番組制作改善研究班』

（担当） 寺脇 若松 柴山

（別紙2）

<p style="text-align: center;">郵便はがき</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <input style="width: 30px; height: 25px;" type="text"/> <input style="width: 30px; height: 25px;" type="text"/> <input style="width: 30px; height: 25px;" type="text"/> <span style="margin: 0 5px;">-</span> <input style="width: 30px; height: 25px;" type="text"/> <input style="width: 30px; height: 25px;" type="text"/> </div> </div> <p style="margin-top: 20px;">〒260 千葉市若葉2丁目</p> <p style="text-align: center;">放送教育開発センター 『番組制作改善研究班』宛</p> <div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 15px; margin-top: 20px;"></div>	<p style="text-align: center;">『特別モニター』について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 希望する</li> <li>2. 希望しない</li> </ol> <p style="text-align: center;">（どちらかを○で囲む）</p>  <p>氏名（ 郵便番号（〒                      ） 住所（ 電話番号（</p>
---	--

別表(3)

『特別モニター』（59. 8. 15）

「青少年文化」

東京（100） ..... 24名

主婦 .....	6名
公務員 .....	10名
会社員 .....	6名
自由業 .....	2名

千 葉 (200) ..... 13名

主 婦	.....	5名
公務員	.....	0名
会社員	.....	4名
自由業	.....	4名

埼 玉 (300) ..... 4名

主 婦	.....	1名
公務員	.....	1名
会社員	.....	2名

神奈川 (400) ..... 7名

主 婦	.....	2名
公務員	.....	3名
会社員	.....	2名

計 ..... 48名

#### 別表(4)

『特別モニター』 (59. 8. 15)

「人間の生物学」

東 京 (100) ..... 29名

主 婦	.....	7名
公務員	.....	9名
会社員	.....	9名
自由業	.....	4名

千 葉 (200) ..... 15名

主 婦	.....	7名
公務員	.....	2名
会社員	.....	5名
自由業	.....	1名

埼玉 (300) ..... 7名

主婦	.....	3名
公務員	.....	2名
会社員	.....	2名

神奈川 (400) ..... 4名

主婦	.....	2名
公務員	.....	1名
会社員	.....	1名

計 ..... 55名

## (2) 「Questionnaire」及び「正答誤答表」の作成について

Questionnaireと正答誤答表の作成については、『青少年文化』担当の深谷昌志教授と門脇厚司助教授、それから、『人間の生物学』担当の太田次郎教授の三先生とも、丁度、連日の番組制作で忙しい最中に、それぞれ、このQuestionnaireと正答誤答表づくりをお願いすることとなった。三人の先生方に、たいへんな負担をおかけしたことになった。

おかげで、放送がはじまる8月20日（月）までには、15回分の出題と正答誤答表が準備できたので、「アンケートの定期的送受信」を、効率的に、且つ、たいへん、順調にすすめることができた。

なお、15週にわたって、毎週、特別モニターへ送り届けた『青少年文化』及び『人間の生物学』のQuestionnaire、並びに、正答誤答表は、巻末に、一括して、付録として掲載した。

## (3) アンケートの定期的送受信について

今回の調査研究は、15週にわたって、毎週、1問（5肢選択法）ずつのQuestionnaireを特別モニターに郵送して回答を求めるという極めて煩瑣な業務となるため、アンケート用紙の送受信業務や回答ハガキの回収・整理業務、さらに、回答に対するフィードバック業務等の省力化と効率化を考え、アンケート用紙ならびに回答ハガキの送受信を、次のようにした。

『青少年文化』……毎週木曜日（午前5:45～6:30）放送

(ア) Questionnaireの送付

毎週、放送前日には、特別モニターの手元に、Questionnaire（別紙3参照）と回答用ハガキ（別紙4）が届くようにするため、毎週、月曜日の午前中に、今週の分を送付するようにする。

第2週目からは、2回目のQuestionnaireとともに、前週の回答に対する正答誤答表（別紙5参照）を同封して、特別モニターに送付することとする。

- (イ) なお、前週のQuestionnaireに対する回答は、月曜日の午前中に締め切ることとし、直ちに、個人別回答結果表（別紙6：フィードバック用紙）を作成し、次の週の、特別モニターに届けるQuestionnaireに同封して送り返すこととする。

**（別紙3）**

8月23日（木）『青少年文化』（第1回）放送を御覧になって、次の問に答えて下さい。

「発達的な課題」の説明として、いちばん正しいのは、1～5のどれだと思いいになりますか？

これだと思った事項の番号を、1つだけえらび、同封の回答用ハガキに書いて、来週月曜日の午前中までに必着するよう、返送して下さい。

1. 発達的な課題とは、学校で先生たちが決め、子供に守らせるものである。
2. 豊かな社会になると、どこの子供も、発達的な課題を失い始める。
3. 発達的な課題とは、離乳とか、おしめなど、乳児期の問題である。
4. 現代の子供は、発達的な課題を解決することなしに成長している。
5. 順調に育っている子供は、発達的な課題などは考えなくてよい。

(別紙4)

郵便はがき

40

〒260 千葉市若葉2丁目

放送教育開発センター

『番組制作改善研究班』宛

月 日(木)放送

『青少年文化』(第 回)

回 答

氏名 ( )

受講生番号 ( )

(別紙5)

8月23日（木）放送の『青少年文化』（第1回）について、たくさん回答をいただきました。正解は、次の通りです。もう一度よく確かめてください。

1 = 「課題」という言葉にひっかかってしまいましたね。もう一度印刷教材を読み直して下さい。正解は、4.です。

2 = 確かに、日本の子供をイメージにおくと、そんな感じがします。しかし、豊かな社会だからといって、必ずしも成長の歪みも伴うものではありません。正解は、4.です。

3 = 確かに、発達的な課題のポイントは、乳幼児期にみうけられます。しかし、ギャング集団の喪失などが問題となるように、児童期以降にも課題が残っています。正解は、4.です。

4 = これが、正解です。問題は、そうした成長の歪みをどうとらえるかだと思います。講義では、児童期のギャング集団と青年期の反抗をテーマにしてみました。



5 =確かに、そうとも思われますが、問題が生じてから手を打ったのでは、遅過ぎます。発達的な課題は、成長を占うものさしの様なものですから、もう少し大事に扱いましょう。

## (別紙6)

### (個人別回答結果表)

アンケートの集計結果

番組名(回)：青少年文化 (第 1 回目)

受講生番号：4 1 3 4

氏 名：□□□□

正 解：4

あなたの答：4

回答者数：39

正解者数：33

正答率(%)：84.6

---

アンケートの集計結果

番組名(回)：青少年文化 (第 1 回目)

受講生番号：4 1 3 7

氏 名：□□□□

正 解：4

あなたの答：4

回答者数：39

正解者数：33

正答率(%)：84.6

---

アンケートの集計結果

番組名(回)：青少年文化 (第 1 回目)

受講生番号：4 1 3 9

氏 名：□□□□□

正 解：4

あなたの答：4

回 答 者 数：39

正 解 者 数：33

正答率(%)：84.6

---

#### アンケートの集計結果

番組名(回)：青少年文化 (第 1 回目)

受講生番号：4 1 4 0

氏 名：□□□□

正 解：4

あなたの答：4

回 答 者 数：39

正 解 者 数：33

正答率(%)：84.6

『人間の生物学』……毎週土曜日（午前5:45～6:30）放送

#### (ア) Questionnaire の送付

『青少年文化』の場合と同じように考えて、毎週、水曜日の午前中に、今週の分を特別モニターに送付する。

第2週目からは、その週の Questionnaire とともに、前週の回答に対する正答誤答表を同封して送付する。

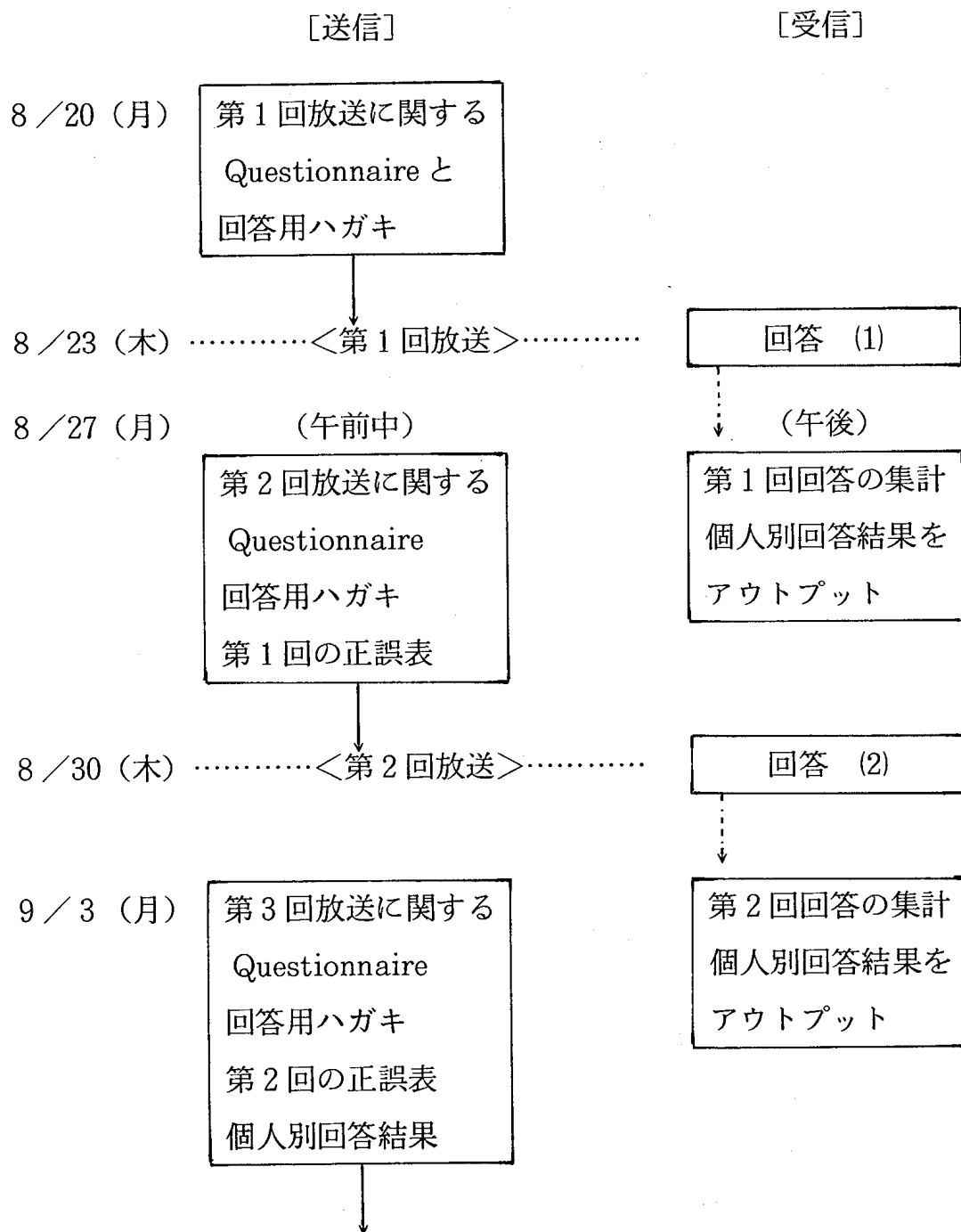
- (イ) 前週の Questionnaire に対する回答は、水曜日の午前中に締め切り、直ちに、個人別回答結果表(フィードバック用紙)を作成し、次の週の Questionnaire に同封して送り返すこととする。

アンケートの定期的送受信の方法は、上に述べた通りであるが、少々、わ

かりにくいと思われるので、『青少年文化』の場合を例にとって、具体的に説明すると、次のようになる。

アンケート用紙・回答用ハガキ等の定期的送受信

(例)『青少年文化』の場合



#### (4) アンケートの調査結果

15週にわたって行ってきた「アンケート調査」の集計結果は、巻末に一括して、付属資料〔I〕として掲載することにした。

以下、それに基づいて、アンケートの調査結果を報告する。

##### (ア) 「集計結果」について

##### (i) 『青少年文化』の調査結果

- a. まず、はじめに、毎回の回答者数（回答者率）や正答者数（正答率）が、どのように推移してきたかをみてみよう。

この「回答状況の推移」（付属資料〔I〕の①）からもわかる通り、回答者率、正答率ともに、かなり高い率で推移してきた。

また、回答の締切後に届いた回答も含めた全体の回収率からいうと、「回答者の推移」（付属資料〔I〕の②）からもわかる通り、殆んど、毎回、8割以上の特別モニターが、回答を寄こしたことになる。

- b. 次に、第1回目から第15回目までの個人別回答結果、及び、回答状況であるが、それについては、巻末の付属資料〔I〕の③をご覧ください。

それによると、個人別回答結果と回答状況が、一目瞭然とわかり、問題のあるモニターの方への速やかな対応が可能で、たいへんこの表は役立った。

##### (ii) 『人間の生物学』の調査結果

- a. はじめに、毎回の回答者数（回答者率）や正答者数（正答率）が、どのように推移してきたかをみてみよう。それらについては、巻末付属資料〔I〕の④を参照されたい。

『人間の生物学』の場合も、その④の「回答状況の推移」から、回答者率、正答率ともに、かなり高率で推移してきたことがわかる。

また、締切後に届いた回答を含めた回収率も、「回答者の推移」（付属資料〔I〕の⑤）を見るとわかる通り、『青少年文化』と同様

に、かなり高く、従って、『人間の生物学』の場合も、学習継続率  
というか、学習の定着度が、かなり高かったことがわかる。

b. また、第1回目から第15回目までの個人別回答結果、及び、回答  
状況は、巻末の付属資料〔I〕の⑥を参照されたい。

この資料も、『青少年文化』の場合と同様、学習管理、成績管理  
上、たいへん役立った。

(イ) 「脱落防止の手だて」について

今回の「アンケート調査」では、回答の回収率を更に高めるための方策  
として、第3回目と第5回目の回答を受け取った段階で、次のような問題  
と思われる特別モニターの方々を、前述の個人別回答状況表の中から洗い  
出し、(別紙7-a, b, c, d, e)のような手紙を、それぞれの該当  
者に郵送することとした。

a	一度も回答をよこさない人	(別紙7-a)
b	いつも締め切り後に届く人	(別紙7-b)
b'	たまに遅れて届く人	(別紙7-b')
c	いつも放送を見ないで回答をよこす人	(別紙7-c)
c'	時々放送を見ないで回答をよこす人	(別紙7-c')
d	時々回答をよこさない人	(別紙7-d)
e	初めて回答をよこさなかった人	(別紙7-e)

(別紙7-a)

昭和59年 月 日

殿

放送教育開発センター

『番組制作改善研究班』

前 略

特別モニターをお引受けいただき、毎週ご回答を期待いたしておりますが、貴

殿におかれましては、未だ一度もご回答がいただけず、残念に思っております。

多分、放送が早朝なのと、毎日のお仕事がお忙しいためかと存じますが、視聴できなかった理由などお知らせいただくのも、これからの放送大学側にとって役立ちます。

ですから、どうぞ、視聴できなかった場合は、回答用ハガキにその理由など書いてご返送いただければ、大変幸いに存じます。

なお、ぜひ今後とも、頑張って放送学習を続けて下さるよう、切にお願い申し上げます。

不 尽

(別紙7—b)

昭和59年 月 日

殿

放送教育開発センター

『番組制作改善研究班』

前 略

毎週番組を視聴していただき、かつ、回答を熱心にお寄せいただき、感謝いたしております。

ただ、残念なことに、貴殿からいただく回答については、しばしば、締め切り日を遅れて配達されることがございまして、集計に加えられないことがございます。

実は、当センターのあります千葉市の幕張地区は、郵便事情が、未だ甚が悪いところで、速達便もききませんし、集配達は一日一回といった状況でございますので、このような事情をお汲みとり下さいまして、できれば、もう少し一日でも早く、投函をお願いしたく存じます。

あしからず、ご協力のほど、お願いいたします。

不 尽

(別紙7—b')

昭和59年 月 日

殿

放送教育開発センター

『番組制作改善研究班』

前 略

毎週番組を視聴していただき、かつ、回答を熱心にお寄せいただき、感謝いたしております。

ただ、残念なことに、貴殿からいただく回答については、たまに、締め切り日を遅れて配達されることがありまして、集計に加えられないことがございます。

実は、当センターのあります千葉市の幕張地区は、郵便事情が、未だ甚が悪いところで、速達便もききませんし、集配達は一日一回といった状況でございますので、このような事情をお汲みとり下さいまして、できれば、もう少し、一日でも早く、投函をお願いしたく存じます。

あしからず、ご協力のほど、お願いいたします。

不 尽

(別紙7—c)

昭和59年9月17日

殿

放送教育開発センター

『番組制作改善研究班』

前 略

毎週『番組制作改善研究』にご協力賜わり、感謝いたしております。

ところで、貴殿からは、毎回回答を寄せていただいておりますが、投函日から推測しますのに、貴殿のハガキは、いつも放送前日に投函されているように見受けられます。多分、印刷教材（テキスト）だけを見て、回答しておられるものと思われます。

どうぞ、放送を視聴なさってから回答して下さるようお願い申し上げます。

不 尽

(別紙7—c')

昭和59年9月 日

殿

放送教育開発センター

『番組制作改善研究班』

前 略

毎週『番組制作改善研究』にご協力賜わり、感謝いたしております。

ところで、貴殿からは、毎回回答を寄せていただいておりますが、投函日から推測しますのに、貴殿のハガキは、たまに放送前日に投函されているように見受けられることがございます。多分、印刷教材（テキスト）だけを見て、回答しておられるものと思われます。

どうぞ、放送を視聴なさってから回答して下さるようお願い申し上げます。

不 尽

(別紙7—d)

昭和59年 月 日

殿

放送教育開発センター

『番組制作改善研究班』

前 略

特別モニターをお引受けいただき、毎週熱心にご回答をいただき、感謝いたしておりますが、貴殿におかれましては、第7回と第8回の回答がいただけず、集計に加えられず、残念に思っております。

多分、放送が早朝なのと、毎日のお仕事がお忙しいためかと存じますが、視聴できなかった理由などお知らせいただくのも、これからの放送大学側にとって役立ちます。

ですから、どうぞ、視聴できなかった場合は、回答用ハガキにその理由など書いてご返送いただければ、大変幸いに存じます。



なお、放送も半分すみしました。あと半分です。ぜひ今後とも、頑張って放送学習を続けて下さるよう、切にお願い申し上げます。

不 尽

(別紙7—e)

昭和59年 月 日

殿

放送教育開発センター

『番組制作改善研究班』

前 略

特別モニターをお引受けいただき、毎週熱心にご回答をいただき、感謝しております。貴殿におかれましては、たまたま、今回（第 回）の回答がいただけず、集計に加えられなくて、残念に思っております。

多分、放送が早朝なのと、毎日のお仕事がお忙しいためかと存じますが、視聴できなかった理由などお知らせいただくのも、これからの放送大学側にとって役立ちます。

ですから、どうぞ、視聴できなかった場合は、回答用ハガキにその理由など書いてご返送いただければ、大変幸いに存じます。

なお、放送も半分すみしました。あと半分です。ぜひ今後とも、頑張って放送学習を続けて下さるよう、切にお願い申し上げます。

不 尽

なお、手紙は、別紙のようにパターン化して、数種類を予め用意しておき、その後、時々、個人別回答状況の推移を見守りながら、該当者がみつければ、直ちに出すように留意した。このような手紙による連絡が、15週にわたり毎回出題したアンケートとともに、脱落防止に役立ったということが、後に書いてもらった特別モニターの感想文からも、十分、うかがい知ることができた。

それにしても、今回のような試みでは、案外、問題となるモニターは、そう多くなく、せいぜい、毎回10パーセント程度で、人数にして4～5人であった。この傾向は、『青少年文化』の場合も、『人間の生物学』の場合も、余り変わりはなかった。おかげで、手紙もパターン化して用意したので、手紙の郵送業務も、そんなに手間のいる仕事ではなかったといえる。当初、脱落者が大勢出て、大変なことになるだろうと思われていたが、全く、そういう心配はなく、すべて、杞憂に終わった。

試みに、全調査期間を通じて、かかる手紙を発送したケースを、『青少年文化』の場合についてみると、次の通りである。

#### 催促の手紙を出した状況

#### 『青少年文化』の場合

(1) 昭和59年9月17日(郵送)	9名
4 1 5 5	4回欠
4 1 5 9	〃
4 4 3 1	3回欠
4 1 6 2	しばしば遅れる
4 2 2 3	〃
4 1 5 1	いつも放送前に投函している
4 1 5 8	〃
4 1 3 4	たまに放送前に投函する
4 1 6 4	〃
(2) 59. 9. 26	4名
4 4 2 6, 4 2 2 4, 4 2 1 5, 4 2 1 6	
(3) 59. 10. 3	1名
4 4 2 6	
(4) 59. 10. 11	2名
4 1 6 7, 4 4 2 2	

(5) 59.10.15 ..... 6名

4 1 4 8, 4 1 5 4, 4 2 2 3, 4 4 2 2, 4 4 2 7,  
4 4 3 1

(6) 59.11.14 ..... 9名

4 1 4 7, 4 1 4 9, 4 1 5 1, 4 1 6 3, 4 2 1 6,  
4 2 2 3, 4 2 2 5, 4 4 2 8, 4 4 3 1

(㉔) 「回答用ハガキにみる特別モニターの反応」について

前掲の（別紙7）のような手紙を出したところ、特別モニターの方々からは、いろいろな反応があった。次に、回答用ハガキに記載されてきた返事のいくつかを紹介することにしよう。

（第1回）

4 1 6 2……（締切後受領）遅れてすみませんでした。いっしょに参加させてください。

4 2 1 6……（締切後受領）夏休みのため、留守にしていたので、遅くなり、申しわけありません。

4 4 2 2……これからが楽しみです。

（第2回）

4 4 2 9……ハガキが、ぎりぎりに着きました。まあ、今回は間に合いましたが……。

4 1 5 6……青年の遊びが、めまい型から競争型へ移っていくのが、よい過程とありましたが、その総合型というのは、どうなのでしょう。

4 1 6 2……遅れて、ごめんなさい。どうぞ、仲間に入れてください。

（第3回）

4 1 5 6……コメント。三児の母ですが、ブロックを子どもに与えて、好きなものを作らせています。

4 4 2 9……第1回は、バツでした。もっと慎重に、よく本とテレビでがんばります。申訳ありませんでした。

(第5回)

4 1 5 5 ……回答をお送りしませんで、申訳けありません。9月から急に忙しくなってしまいました。そのため、本人が視聴できなくなってしまいました。落ちついたら、きっと、VTRでも見ると思います。本人に代わりまして、私が回答いたします。回答せぬ私共にも、正解を送ってくださって、ありがとうございます。とても、参考になりました。今後共よろしく。

4 1 6 2 ……8月末、旅行に出ており、1回、2回と遅れて失礼しました。郵便事情のためではありません。コンピューターに参加できなくて、残念に思っています。これから頑張ろうと楽しみにしています。御世話をかけてしまい、ごめんなさい。申訳けありませんでした。

なお、今回は、学習センターの連絡がありません。開かれていないのでしょうか。テレビやラジオで、再視聴したいもの、朝寝坊して、一番初めの部分の抜けたものなど、いろいろ、もう一度視聴したいのです。学習センターをあてにしていました。もし、開かれているようでしたら、連絡をおねがいします。

これからは、早くポストにいれます。たいへん失礼しました。よろしく願います。

4 4 3 1 ……毎回、回答を送らずにすみません。放送は、かかさず見えます。郵便ポストが遠くて、ハガキを出しそびれ、御迷惑をおかけして、すみません。

以上は、ほんの一例であるが、これらの反応をみて次のようなことが判明した。

(i) 「脱落防止の手だて」の項で述べたように、当方では、パターン化した手紙を出しているにもかかわらず、受け取った方は、パーソナルなコミュニケーションとして受け止めているような返事が返って来る

ようである。

とかく、一方通行だといわれるマスコミ利用の教育にあっては、たとえ、先きに示したような形式的な手紙であっても、キメ細かく送り届けて接触を保つことが大切であると痛感させられた。

- (ii) もう1つは、受講生番号4155の方からの返事でもわかるように、放送大学の学生や受講生の学習というものは、自宅学習が主体であるから、このご夫婦のように、『家族ぐるみの学習』となることが予想される。およそ、全日制の大学では考えられないことだが、放送大学では、このような遠隔教育ならではの学習構造が成立する。放送大学の学生層を考えた場合には、その殆んどが家族持ちであろうから、今後、このような『家族ぐるみの学習』が奨励されてよいように思う。

(エ) 「締切後に届いた回答数」について

今回のような「アンケート調査」に関していうと、現行の「郵便による送受信」では、いろいろと限界のあることが判明した。

「アンケート調査」を実施してみて、当初から、時々、かなりの数の回答用ハガキが、締切後に届くことに気がついたのである。そこで、締切後届いた回答ハガキの枚数も記録にとどめることとした。

その結果、締切後に届いた回答数は、2番組とも、それぞれ、次の表の通りとなった。

別表(5)

〔締め切り後に受領した回答の数〕 (59. 12. 8)

	『青少年文化』	『人間の生物学』
第1回	5	4
第2回	3	8
第3回	3	0
第4回	2	4

	『青少年文化』	『人間の生物学』
第5回	4	5
第6回	5	2
第7回	5	0
第8回	10 (＊)	2
第9回	1	6
第10回	4	4
第11回	2	3
第12回	7	1
第13回	1	4
第14回	5	17 (＊)
第15回	1	0

注 (＊) 印については、投函日を調べてみた。

結果は、別表(6), (7)のとおり。

特に、『青少年文化』の第8回目については、遅れて届いた回答ハガキが10枚にも及んだので、詳しく、その投函日を調べたところ、別表(6)の通りであることが判明した。

また、同様に、『人間の生物学』の第14回目についても、遅れて届いた回答数が、17通にも達していたので、やはり、詳しく、それぞれの投函日を調べたところ、別表(7)の通りであることがわかった。

結局、現在のところ、当放送教育開発センターの在る千葉市の幕張地区は、新開地のため、いまだ、郵便事情が著しく悪いことに、どうやら、遅配の原因があるようである。高度情報化社会の時代などと騒がれている時に、これでは、余りにもひどすぎる。今後、早急に改善を望みたい。

## 別表(6)

### 郵便事情の説明資料

『青少年文化』第8回放送（10月11日放送）の回答状況 …… 30通

10月12日（金）に受領した回答 ……	10通
〔内訳〕 10月11日（木）投函 ……	10
10月13日（土）に受領した回答 ……	10通
〔内訳〕 10月12日（金）投函 ……	10
10月15日（月）に受領した回答（締切日） ……	10通
〔内訳〕 10月12日（金）投函 ……	2
10月13日（土）投函 ……	7
10月14日（日）投函 ……	1

\*締切に間に合わなかった回答 …… 10通

    〔内訳〕 10月16日（火）に受領 …… 10

10月13日（土）投函 ……	2
10月14日（日）投函 ……	3
10月15日（月）投函 ……	5

\*結局、この回に回答をよこした特別モニターの総計は40名だった。

(83%)

## 別表(7)

### 郵便事情の説明資料

『人間の生物学』第14回放送（11月24日）の回答状況 …… 28通

締切日時 …… 11月28日（水）午前中

[内訳]		
11月23日（金）投函	.....	1通
24日（土）	.....	14
25日（日）	.....	7
26日（月）	.....	3
27日（火）	.....	3

\*締切に間に合わなかった回答 ..... 17通

[内訳]		
11月29日（木）に受領	.....	13通
11月26日（月）投函	.....	13
11月30日（金）に受領	.....	4通
11月27日（火）投函	.....	4

\*結局、この回も、回答をよこした特別モニターの総計は、45名だった。  
(85%)

(オ) 「連休前後における回答状況」について

とかく、放送利用の遠隔教育で問題になるのが、連休前後における回答者率の減少傾向である。特に今回のような被験者の大部分が家族持ちである場合には、なおさら、そういった現象がおこることが予想されていた。

今回の調査期間中にも、何回かの連休がはさまっていたので、そうした連休が、どのように、回答者率に影響するだろうかと調べることにした。

次の別表(8)は、『青少年文化』の場合の回答者率の減少状況を示したものであるが、別表(8)によって、その影響をみてみることにしよう。

まず、「敬老の日」が最初であったが、回答者率は、81.3パーセントで、あまり影響がないようであった。放送日の13日と15日では、1日あいていたので、影響が少なかったのかも知れない。



## 別表(8)

### 連休前後の回答者率の減少状況

(1)	9/13 (木) 放送No. 4	.....	9/15 (土)	敬老の日
	回答者数	39人	9/16 (日)	
	回答者率	81.3%		
(2)	9/20 (木) 放送No. 5	.....	9/23 (日)	秋分の日
	回答者数	41人	9/24 (月)	フリカエ
	" 率	85.4%		
(3)	10/11 (木) 放送No. 8	.....	10/10 (水)	体育の日
	回答者数	30人		
	" 率	62.5%		
(4)	11/ 1 (木) 放送No.11	.....	11/ 3 (土)	文化の日
	回答者数	36人	11/ 4 (日)	
	" 率	75 %		
(5)	11/22 (木) 放送No.14	.....	11/23 (金)	勤労感謝
	回答者数	27人	11/24 (土)	トビ連休
	" 率	56.3%	11/25 (日)	

次が、「秋分の日」であったが、この場合も、放送日と連休との間が  
 いていた関係と思われるが、回答者率は、85.4パーセントで、あまり影響  
 はなかったようである。

次が、「体育の日」であるが、その翌日が放送日にあたっていた。この  
 第8回目の回答率が、62.5パーセントと、たいへん低くなったのである。  
 ところが、この第8回目の放送に関しては、前述のとおり、回答締切後に、  
 10通も到着したのである。そこで、投函日を調べた結果、大量の遅れを出

したのは、連休のせいではなくて、郵便事情のためであること——つまり、連休による郵便業務の低下が、かかる結果をもたらしたものと思われるのである。

次の「文化の日」であるが、この回も、回答者率は、75パーセントと、だいたい、平均を示しているので、あまり、影響はなかったといえる。

第14回目の放送が、ちょうど、「勤労感謝の日」の前日で、しかも、もう14回といえば、放送もあと1回で、視聴疲れというか、学習疲れの出ているところで、さすがに、回答者率56.3パーセントと最低であった。しかし、この回もまた、締切に遅れて到着した回答が5通もあった。

それにしても、最終回の回答者率は、66.7パーセントと、10パーセントも回復しており、こうした傾向全般を眺めてみて、どうも回答者率に影響を与えているのは、連休のせいではなく、郵便事情の方にあると考えた方が至当のように思われる。

以上は、『青少年文化』の場合の回答状況について述べたわけであるが、『人間の生物学』についても、全く、同様であることがわかった。